

メールレター(44)

秋の訪れ

雨の日が多くなり、秋の気配を感じるようになりました。朝晩はうす寒いほどです。

ドリトル先生は8月11日に75歳になりました。

「オリオン座が大きく見える時に僕は生まれたんだ。縦に三つの星が見え、横の遠くに大きく光るもう一つの星があり、結ぶと三角形になるんだ。それがオリオン座なんだ。」

夜空にくっきりと浮かぶ星はギリシャ神話のようにロマンがあるようです。

ドリトル先生は新しいドローンを取り寄せ、操縦を再開しました。テラスに天気感知器も取り付け、風向きを調べながら操縦しております。ところが、うまくいかないものですね、ある日イケメンの警官がやってきました。

「お宅でドローンしていませんか？ 苦情がきているのですが」

「あらー、それはどうしたことでしょう。主人のドローンかしら。お待ちください、呼んできますから。」

「探りを入れられているようで、水着にもなれないし、日光浴もできないと言ってきている人がいます。ドローンは許可もいるし。許可とっています？」

やってきたドリトル先生は、

「ご迷惑をかけてしまったようですね。ドローンは一番小型の許可のいないものなんですよ。ほぼおもちゃですから。」

「特に問題はなさそうですが、念のためのアドバイスです。皆、コロナでピリピリしている時期なので少しか控えてください。」

隣、近所のテラスはおトドのおばさんがいるだけなのですが、ここが苦情先なようです。それにしても、ケベックの警官は優しくて穏やかで、しかもイケメン。隣りのおトドより夢がありそうです。

「しばらく、テラスでのドローン操縦はひかえて、人目のないキッチンで操縦しようかなあ。」
これもまた、恐ろしい。

我が家は、この夏はあっという間に終わりました。義理の長男は3週間後(9月中旬)に再婚することになっています。6月にローマで結婚式をしようと言っていて、このコロナの時期にと皆の輦感をかい、結局キャンセル。それなら、ヴァンクーバーで結婚式をしようと騒ぎましたが出席者なしで、キャンセル。3度目の正直で、モンリオールの近場で結婚式をしようです。双方の連れ子で長男は4人の子持ちになってしまいました。今や、大家族です。

この長男がバカンスに行っていた間、猫シッターをして猫を10日間預かっていました。ブランド猫らしいのですが、これほど猫の品格に欠ける猫が初めてでした。歩くときは背を平たくし

て攻撃体制。水は手で飲み、餌はドライフードだけです。鳴かず、戯れず、ゴロゴロ言わず、猫の喜びを知らないのです。マダム田中は、一緒に這いつくばって遊び、猫歩きを教えていました。遊ぶことも覚え、舌で水を飲むことも覚えました。ドリトル先生によれば、

「猫は環境によって進歩発展が違うんだ。猫遊びができないと猫知恵がつかないんだ。」
無事にシッターを終え、長男の元に戻る時には心なしか、猫が名残りを惜しんでいるように見えました。

義理の次男は、州境が閉鎖されたまま、ニューブランズウィック州に取り残され、森と海で子供たちと遊びながら大学の新学期に備えて研究を続けているようです。森でのキノコ狩りはかなり良い収穫らしく、オムレツやスパゲッティなどで美味しく料理をしているようです。海では魚を釣り、貝拾いをしてキャンプです。これもまた美味しく料理をしているようです。

義理の次男が飼っている青い卵を産む鶏も、毎日卵を産んでいるようです。新顔が増え、三羽になりました。新顔の鶏は、鶏の意識がないらしく、孫や次男の腕に抱かれて眠っているようです。一人前の鶏になれるのでしょうか。この次男の子供たちとのコレスポンデスも、ドリトル先生がアフリカを発ち、カナダに向かうところで終わりました。

「子供たちも僕もコレスポンデスを楽しく読んだよ。タイムカプセルに乗って、子供たちとアフリカの旅をしたようだった。若いパパの姿が見えるようだった。家族の宝物だ。ありがとう。」

と電話がきました。おじいちゃんの冒険談は孫たちには夢の世界だったかもしれません。

新しい仕事についたばかりの娘は、どうやら来年春先に出産のようです。幸せそうな顔をしていました。コンドミニアムを買ったり、出産準備に忙しくしています。DNAによれば、私はほぼ確実に紅毛碧眼の孫を持つことになりそうです。まるでばあやのように、似ても似つかぬ、外人の孫を腕に抱くことになりそうです。これも幸せのうちでしょうか。

昨日からトロントに来ています。モントリオールからカナダ横断高速道路を西に向けてまっしぐら。コロナのせいか車は少なく快適なドライブでしたが、トロントに着いて、コロナの影響の大きさに唖然としました。ホテルの施設は大半が閉まり、ホテルのレストランもテイクアウトのみです。注文して部屋で食べるらしいのですが、あーダサイこと。その上、ホテルについて荷物を置いたとたんに、火災報知器が鳴り出し、ホテルの外に出されました。何事もなく、直ぐに部屋に戻しましたが、あー心臓に悪い。ドキドキします。

少しだけ落ち着いたところで、街の中を一回りしてみると、レストランは半分以上は閉まっているか倒産しています。チャイナタウンは荒れ果てています。近所のレストランは、テラスのみの営業が多く、座ってゆっくり味わう場所を探すのは至難の技でした。でも、ありました！ありました！掘り出し物が。このあたりはパブが多く、地ビールさえある、生ビールの美味しい一角だったのです。良く冷えた生ビールをぐくぐくと。。。つまみですか、つまみはフライド

ポテトやチップス、ホットドッグ、ハンバーガー、等です。ホットドッグを10年ぶりに食べてみました。それなりに美味しいものですね。

トロント訪問の目的だった15年ぶりの、ドリトル先生の昔の剣道仲間との再会もチャーミングなものでした。

「君、僕の後を継いで会長になる気はない？」

「妻に相談してみるよ。」

「君はどうなんだい？」

「今は、健康で過ぎてきたコロナの日々を思いながら、懐かしい再会を喜ぶ、エンドオブサマートーク(end of summer talk)ということにしておくよ。また、妻も含めてゆっくり会うことにしよう。」

穏やかに初秋の日が終わろうとしています。